

【高知大学】

人文学部4年生

氏名：闫露（エン ル）

国籍：中国



高慢と偏見を越える

世の中、様々な偏見が存在します。例えば、皆さんの中で大阪の人は「下品」や「ヒョウ柄」、東京の人は「冷たい」などのイメージを持っている方は少なくないでしょう。しかし、実際に行って接してみると、実は違うということは多々あることです。「お洒落な大阪人」や「おせっかいな東京人」もたくさんいます。その考え方は偏見なのです。

私は、小さい頃から学校やメディア、お年寄りから、「日本人は礼儀正しいけど酷い、狡い」などと教えられてきました。この偏見は、抗日ドラマを通じて、ますます強化されていきました。その当時、日本のイメージを救ったのは、「ドラえもん」でした。漫画を読むたびに、私の考えたイメージと違う日本を発見しました。仲間たちとの友情、異国的な町の風景などは、まだ子供だった私に強い印象を残しました。これも、その後の日本留学のきっかけになりました。

日本に来たあと、綺麗な道で迷っていると、親切に道を案内してくれる方もいました。一番印象に残っていることは、あるおじいさんと出会ったことです。それは、2012年の冬のことでした。私は、駅の前で信号を待っていました。個人的なことで落ち込んでいた私は、信号が変わった後、ゆっくり交差点をわたっていきました。突然、自分の手がだれかに掴まれました。「大丈夫です、大丈夫です、しっかりして」と言いながら、私を心配そうに見続けるおじいさんが目の前に立っていました。「ありがとう」と感謝した後、私は家に帰りました。その帰り道、ずっとそのおじいさんに感謝していました。そして、今でも感謝しています。この異国で自分のことを心配してくれて本当に有難うございます。

日本に在住してきた7年間で、ホームレスや国会議員、防衛大臣までいろいろな人と接することができました。そして、日本に対する認識も変わりました。建前と本音を使い分けるのが、日本人です。親切で、礼儀正しいのも日本人です。「いじめ」や「真面目」、この何個かの単語で一億二千万人の日本人を全て言い表すのは不可能です。

私たちができるのは、ただそこへ行き、自分の目で見て、自分の耳で聞き、自分の頭で判断することです。現在、日本へ旅行する中国人が増え続けているとともに、日本に対しての認識もますます深まっています。一步踏み出してみても、日本人の皆さんも「怖い」、「汚い」と言われている中国の本当の姿を自分の目で見てみませんか。これからも、皆さんと一緒に政治的な立場や国境を越え、高慢と偏見を捨て、自分で判断を下すように頑張りたいです。

ご清聴ありがとうございました。

理工学部特別聴講学生

氏名：馬 芸文（マ ケイブン）

国籍：中国



小説から見つけた日本

私が見つけた日本は、日本の小説から見つけたものです。実際に日本に来て見つけたものではないので、おかしいと思う方もいらっしゃるかもしれませんが、しかし、私は、そうは思いません。

私は、幸運なことに実際にここ高知大学に留学できました。しかし、中国で日本語を学ぶ学生のほとんどは、日本に来ることはかないません。日本人に会うことさえ、難しいのです。

そんな私たちが日本を見つけるのは、日本人作家の小説からなのです。日本に生まれて育った作家が書く小説は、私にとって日本そのものなのです。

皆さんご存知のように、川端康成はアジアで初めてノーベル賞を受賞した世界的に有名な作家です。日本人の心の精髓をこの世界に伝えたと言われています。私が川端康成の作品の中で一番好きなのは、「雪国」です。「国境の長いトンネルを抜けると雪国であった。夜の底が白くなった。信号所に汽車が止まった」。心の動くスピードと文章のスピードがマッチしていると評された文章を読んだことがあります。その通りです。列車に自分が乗っていたら、突然真っ白な銀世界が広がる、私自身が体験しているような文章の展開です。文章全体に美しい哀れが描かれています。私は、この雪国から「日本の哀れ」を見つけました。

初めて日本へ来た日、高松から高知までバスで来ました。いくつもあるトンネルを抜けるたびに、雪国だったかと思いましたが、しかし、到着したのは、明るい光の降り注ぐ南国の高知でした。そして、このトンネルは、私の今までの生活から高知での留学生活への転機となる長いトンネルだと思えました。

私が好きな作家は、もう一人います。夏目漱石です。彼の小説の特徴は、素朴さとユーモアです。彼の小説の中で、私が大好きなのは『坊ちゃん』です。坊ちゃんは、教師として汽車で田舎の学校に赴任しました。出発の日、使用人の清が見送りました。坊ちゃんが、「もう大丈夫だろうと思って窓から首を出して振り向いたら、やっぱり立っていた。何だか大変小さく見えた」、この部分を読んだ時に、私は涙が止まりませんでした。坊ちゃんと清の絆は、深く私の心の底まで伝わりました。人と人とのつながりは、美しく大切です。国に関係なく、誰にとっても宝物だと私は思いました。

それは、私が小説から見つけた日本です。現在の私は、やっと自分の目で日本を見ることが出来ます。高知は山と海に囲まれた綺麗なところだと思います。私の部屋からは、直接山が見えます。晴れた朝、ミルクを飲みながら山を眺めるのは、一番楽しいことです。日本の季節の移ろいが感じられるからです。そして、人と人とのつながりをこれからも大切にしていきたいです。